【国語・小５・「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう『固有種が教えてくれること』『グラフや表を用いて書こう』】①

育成を目指す資質・能力（本時(3/12時間目)のねらい）

【本時のねらい】文章と資料を結び付けて読み、キーワードを使って段落の文章を一文に要約し、筆者がもっとも言いたかったことを要点としてとらえることができる。

ICT活用のポイント

【授業の視点】説明文の学習において、個別評価により要約文のポイントを示すことによって、筆者が言いたかったことを要旨としてとらえることができるようになるであろう。

事例の概要

【つかむ】
全文を通読し、初発の感想をもち、学習課題をつくる。

【追究する】
・文章の構成から「論の展開」を捉える。
・文章と資料を結び付けて読み、段落を要約する。
・文や資料を基に論の進め方を捉え、要旨をまとめる。

【追究する】
・統計資料の読み方を理解する。
・資料から読み取れることと、その資料を用いる効果をまとめる。

【まとめる】
学習したことを生かして自分の考えを文章にまとめる。

☆実際の授業の様子

＜導入＞
〇開始と同時に全文を音読させた。本時は、資料があることの効果を理解させるため、初めは資料を省いた文章だけのプリントを読ませた。

＜追究＞
〇形式段落の要約「第三段落を15字以内」（個で考える）
「キーワード」（3つまで）を選んで一文要約を行った。要約は中学年で学ぶが、名詞止めで一文を作るなどスキルの向上も見られた。
〇要約文の比較検討（友達との交流で課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきを持つ）
タブレットの情報共有ソフトを活用して、子どもたちの要約文を共有した。付箋紙モードに入力させ、表示した後に各々の付箋を移動できるようにした。教員が画面上で2つのグループに動かして、間に線を引くことで「左右のグループの違いは何だろう？」と、子どもたちの思考のスイッチが入った。書けない児童は友達の要約文をヒントにした。黒板に書かせるより時間をかなり節約できた。
〇授業は第4 段落の要約の途中で終了した。児童が続きをまとめたがっていたので家に帰ってからの入力も可とした。

【国語・小５・「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう『固有種が教えてくれること』『グラフや表を用いて書こう』」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

要約文のグループ分け

【事例におけるICT活用の場面②】

友達の意見を参考に

〔よかった点〕

○国語は算数等に比べ、当該学年で学ぶ内容を「スキル・技術」として教員が意識しづらいという現実がある。今回は「中学年で学習する要約を次の学習課題（要旨をつかむ）を達成するためのツールとする」というように、国語の「スキル・技術」という視点が大切にされていた。

○各々の要約文を教師が意図的にグループ分けし、理由を考えさせたことで児童の思考がより深まった。次回は、児童にグループ分けをさせてみてもよいであろう。

○普段の授業では発言に消極的な児童も、タブレットを使っての比較検討には進んで参加し、意欲的に付箋を送ってきた。特別な配慮を要する児童の学習参加にもICTの活用が有効であった。「間違っても大丈夫」と児童が安心して自分の考えを表すことができる学級は、学びが豊かである。

〔よりよい授業に向けて〕

○「資料の地図があることで、よりわかりやすくなる。」こういった確認を差し込むことで資料の有用性をより実感させることができ、自分たちが書くときに役立つだろう。

○「要旨をとらえるための要約」というように児童が最終的な目標を見定めて取り組むことが大切である。また、今回の説明文を読む学習を、自分たちが「書く」際に生かすというように、単元のゴールを示しておくことで、研修テーマにあるように、今後も児童に「必要感のある言語活動」として意識させてほしい。

【活用したソフトや機能】 大型提示装置（電子黒板）
ICT端末（情報共有ソフト）